

頑張る

農業法人

舞鶴湾を間近に望む舞鶴市平地区で、「平の農地は平で守ろう」を合言葉に2月1日に誕生した農事組合法人「大浦ファーム」。

水田13畝のうち遊休田2・5畝を集積して、水稲の全面受託を行う他、約5畝の部分受託作業を主事業にスタートした。

今後は小豆や黒大豆栽培の機械化、6次産業化の後継者育成を目指し、地域農業振興、農地保全の拠点として期待されている。

(ほじょう)整備が行われ、圃場が広くなったことから、個々の農家の農材投資を軽減しようと91年に、大型農機の共同利用を行う「平機械組合」を設立した。トラクター2台、コンバイン2台、乾燥機4台を購入し、各農家で利用していた。

しかし、大型農機が使えない農家もあり、さらに高齢化により休耕田が増えてきたため、同組合が率先して田植えや稲刈りなどの農作業を行ってきた。

そうした中「農地を守っていくためには、農業経営が行える組織が地域に必要だ」との気運が高まり、集落住民にアンケートを取り、合意を確認。JAや中央会、行政の支援の下組合員31人で同法人を設立した。

同地区は、市の北にある大浦半島の一角で舞鶴湾に面した80世帯240人の集落。農家は35戸で、良食米が栽培されてきた。

1978年に平、赤野の両地区で約25畝の圃場の両地区で約25畝の圃場

農事組合法人 大浦ファーム 舞鶴市平



特別栽培米の田んぼを背景に谷口代表理事(中)と会計担当の梅原栄一理事(右)、福岡嘉三理事

水田集積し受託作業

代表理事の谷口和さん(67)と理事4人、監事1人で運営に当たり、農繁期にはオペレーター6人を雇用する。

小豆などの機械化栽培も

水稲2・5畝のうち1畝でJA京都にのくが取り組む「特別栽培米」の生産に挑む他、春、秋作業の部分受託を行っている。

組合員からは「やはり地元の法人だから安心して任せられる」と好評だ。

谷口代表理事は「このままでは作り手のいない田が増えるという危機感から法人化を決意した。産声を上げたばかりの法人だが、今後は小豆、黒大豆の機械化による栽培や農産物の加工、販売も経営に取り入れるよう計画していきたい。

また、地元の青年会とも積極的に交流し、後継者として育成していきたい」と話す。
▽法人所在地 舞鶴市平1629。電話 077-3(60)2610。